



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



農林水産省は、5月12日に **みどりの食糧システム戦略** を決めました。
これは、**食料生産力の向上**と**30年後のカーボンゼロ**など地球環境に配慮した**持続可能な農業の両立**を実現しようというものです。

世界の食料・農業グリーン化のルールづくりが急速に萌芽してきました！
地方に暮らす私たちも決して他人事ではない時代がもう目の前に来ています。

今回はこうした戦略をご紹介します

<我が国の課題>

- ・ 生産者の減少、高齢化、地域コミュニティの衰退
- ・ 温暖化、大規模自然災害
- ・ コロナを契機としたサプライチェーンの混乱、肉食拡大
- ・ SDGsや環境への対応強化
- ・ 国際ルールメイキングへの参画

三重県の課題 (農業関係者等からのヒヤリングによる)

- ・ 認定農業者の後継者がいないという現状
- ・ 農業労働者の不足。とりわけ南北格差が顕著
- ・ マーケティング対応が脆弱、ノウハウ不足
- ・ 県内農産物価格の低迷、生産コストの高騰
- ・ AI、デジタル化の遅れ
- ・ 獣害による被害額の増加 etc

<戦略が目指す姿とKPI>

- ① 2050年までに**化学農薬使用量の50%低減**。
- ② 2050年までに**化学肥料の使用量の30%低減**。
- ③ 2050年までに耕地面積に占める**有機農業の面積を25%(100万ha)に拡大**。
- ④ 2050年 **CO2 ゼロエミッション化の実現**。
- ⑤ 支援対象を2030年まで戦略対応者に集中、2040年までカーボンニュートラルへの対応、2050年まで**化石燃料不使用施設への完全移行**。
- ⑥ 2040年までに**農林業機械・漁船の電化・水素化技術の確立**。
- ⑦ 2050年のカーボンニュートラルに向け**農山漁村の再生エネルギーの導入**。
- ⑧ 2030年度までに事業系**食品ロス**を半減させる。
- ⑨ 2030年までに**食品製造業の自動化**、2050年までに**完全無人製造ラインの実現**で労働生産性向上を図る。
- ⑩ 2030年までに食品企業の**サセテナビリティ**を考慮した輸入原材料調達。
- ⑪ 2030年までに**飲食料品卸業の対売上経費**を10%削減。
- ⑫ 2050年までに**エントリーツリー**等を林業用苗木の9割以上に拡大。
※ エントリーツリー:人工交配等により得られた成長がより優れた精鋭樹
- ⑬ 2030年までに**漁獲量**を2010年と同量(444万ト)まで回復。
- ⑭ 2050年までに**ニホンウナギ、クロマグロ**等の養殖で人工種苗比100%を実現。



世界では

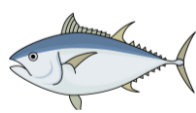
Farm to Fork 戦略

(農場から食卓まで)

EU委員会が2020年5月発表

2030年を目標に

- ・ 農薬の使用・リスクを50%削減
- ・ 一人当たり食品廃棄物を50%削減
- ・ 肥料の使用を少なくとも20%削減
- ・ 家畜及び養殖に使用される抗菌剤販売の50%削減
- ・ 有機農業に利用される農地を少なくとも25%に到達 など



米国農畜産業の展望

2020農業アウトLOOKフォーラム

<USDAが設定する基準>

- ・ 2030年までに食物残さと廃棄を50%削減
- ・ 2050年までに農業部門からの現在の二酸化炭素排出量を純減
- ・ 水質汚染を防ぐため2050年までに、土壌流出を30%削減
- ・ 再生可能エネルギー原料を増加し輸送用燃料の混合率を2030年までに15%、2050年までに30%へ引き上げ

<具体的な取り組み>

1. 資材・エネルギー調達における**脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進**
2. イノベーション等による**持続的生産体制の構築**
3. ムリ・ムダのない**持続可能な加工・流通システムの確立**
4. 環境にやさしい**持続可能な消費の拡大**や**食育の推進**
5. 食料システムを支える**持続可能な農産漁村の創造**
6. サプライチェーン全体を貫く**基盤技術の確立と連携**
7. カーボンニュートラルに向けた**森林・木材のフル活用によるCO2吸収と固定の最大化**

2050年には、こうした取り組みが実現し、一人ひとりが実感して暮らしているのでしょうか？

二面では、矢野理事が東京レポートをお届けします。



東京レポート



本年4月から東京日本橋の「三重テラス」での勤務となり、早くも3か月が過ぎようとしています。新型コロナの第4波により思うような活動ができていませんが、最近の東京の状況についてレポートしたいと思います。



○緊急事態宣言

東京都では、4月12日からまん延防止等重点措置が取られ飲食店への営業時間短縮要請があり、飲食店では営業時間を午後 8 時まで(酒類の提供は午後7時まで)に制限されていましたが、感染者の増加により4月25日からは緊急事態宣言の対象となり商業施設等への休業要請や飲食店での酒類提供禁止要請などが出され、三重テラスも全館休業としました。その後2度の宣言延長となりましたが、三重テラスでは6月5日から営業再開(ショップは7日から)し、まん延防止等重点措置に切り替わった6月21日からは午後7時までの酒類の提供を再開しています。

度重なる休業要請により、特に飲食店は本当に疲弊しており厳しい状況が続いています。一方で、昨年4月にはじめての緊急事態宣言が出された際には、未経験のウイルスへの不安や企業の在宅勤務や学校の休校などにより、日本橋周辺でも人通りが殆ど無くなったようですが、今回の緊急事態宣言時はコロナへの対処方法や所謂コロナ疲れもあり、それほど人流が減っているわけではなさそうです。また、日本橋周辺と、銀座周辺、渋谷駅周辺、上野駅周辺では、人流や街の雰囲気は全く異なっており、東京都での対策の難しさが伺われます。



○東京駅八重洲口周辺再開発

このような中、東京駅八重洲口の再開発が進んでいます。2022年 8 月には東京駅八重洲口再開発の皮切りとなる「東京ミッドタウン八重洲」がオープン予定で、日本初進出となる「ブルガリホテル東京」やビジネス交流施設、商業施設のほか、地下2階には東京駅周辺に分散している高速バス停留所を集約し、国際空港や地方都市を結ぶ高速バスが発着する国内最大規模のバスターミナルとなるようです。その後も八重洲一丁目東地区、八重洲二丁目中地区の再開発が予定されており、数年のうちに東京駅八重洲口が様変わりしそうです。



○渋谷駅地下街再開発

スクランブル交差点で有名な若者のまち渋谷駅の地下街再開発が進んでいます。渋谷駅はJR山手線をはじめ、JR埼京線、京王井の頭線、東急東横線、東急田園都市線、東京メトロなどが乗り入れる巨大ターミナル駅で、各社合計の1日平均乗降人員は約330万人にもなります。現在この渋谷駅の地下街「しぶちか」の再開発が進められており、2021年初夏にグランドオープンを迎えます。

この地下街の一角に「AZLM CONNECTED CAFE」という店舗が7月1日にオープンします。この店舗は、地方創生をテーマに店内に設けた約300点のディスプレイスペースに地方に眠る良いモノ・コト・ヒトを展示し、あらゆる商品をライブでマーケティングできる未来型のカフェです。三重からも 6 ブースを借りて、延べ 10 商品(6事業者)の展示を予定しています。

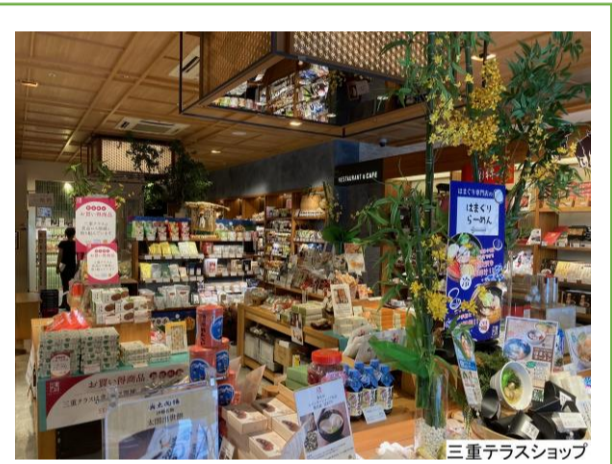
東京では7月23日からオリンピックが始まります。新型コロナのワクチン接種も急ピッチで進んでいます。人々の生活は新型コロナによって大きく変わりましたが、アフターコロナ・ウィズコロナに対応し、知恵と工夫でピンチをチャンスに反転攻勢に向けて頑張りましょう。



地域連携ネットワークみえ理事 矢野次男



三重テラス正面入口



三重テラスショップ



八重洲ROIイメージ(三井不動産株)



渋谷駅地下街イメージ(東急株)

(後記) いま地域のコミュニティが衰退していると言われていています。各基礎自治体は、改めて「まちづくり」という課題に取り組みされているところが多くなってきました。「まちづくり」という言葉は、1952年に発行された雑誌で初めて使われた言葉だそうです。戦後復興で大都市に人口が集中したことにより住環境が劣悪になったことで、問題を自治体任せにせず住民自らが声を上げようということで「まちづくり」という言葉が誕生しました。今も昔も本来の「まちづくり」は住民主体が真の姿なんですね！